

教育目標

心豊かに 進んで学び 生きる力を身につける つつじが丘の子

二中エリアファミリー 目指す児童像
つつじが丘小CS

地域とつながり 夢をもって学ぶ 笑顔と思いやりあふれる つつじっ子

学習プラン

生活プラン

体カプラン

令和7年度の重点テーマ

何度もチャレンジ

「自分のよさ・仲間のよさに気づき、自信を深める」つつじっ子

自己肯定感が高い傾向にある子供は、進路の目標が明確で、友人関係も良好である一方で、学習への意欲や理解度が低い子供や、問題行動が見られる子供は、自己肯定感が低い傾向にある。子供を認める・励ます、子供一人一人のよさを生かし、子供自身が自分を価値ある存在として認められるような自己肯定感を高める指導の工夫が必要。その上で個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、自立した学習者の育成を目指す。

D

まなび

- 自立した学習者の育成を目指した授業デザインの工夫
- 主体的・対話的で深い学びに向かうICTの効果的な活用
- 学ぶための基礎・基本の力の育成と家庭学習の習慣化
- 「学びのやくそく」による学び方指導の徹底
- 「おび学」等を利用し、体験的な学びや本物と出会う学習機会の確保

こころ

- 「元気な挨拶・返事と立腰」を意識した基本的生活習慣の確立
- 特別支援・インクルーシブ教育を中心とした学習環境づくり
- 全教科全領域における道徳教育の実践と充実
- 児童の思いを生かした特別活動の充実
- 心を豊かにする読書活動
- 感性を育む音楽・造形活動

からだ

- 体育における運動有能感を高める工夫と主体的な体力づくりの推進
- 危険予知・回避能力を高める安全指導と環境整備の充実
- 命を大切にする心と健康・安全を保つ保健学習の充実
- 生涯にわたってスポーツに親しむ運動の習慣化
- 整理整頓され、清潔で落ち着いた教室環境(学習環境)の充実

自己肯定感を高める指導

褒めるから認める
挑戦心・達成感
自己有用感

家庭との連携

- 授業参観、懇談会、面談等、対面での話し合いを重視
- ICTを活用した情報発信の工夫(chromebookを活用した作品展、安心メールの活用等)
- 家読、読書活動の習慣化
- 年2回の学校評価アンケートの実施と検証

地域との連携

- つつじの会との連携強化
- 帯広第二中エリアファミリーによる幼保小中の連携強化
- コミュニティ・スクールの積極活用による諸団体との連携
- キャリア教育の観点からの校区内の道立校との連携を模索していく

A

C

自分にはよいところがある
85%(分布も全国並み)

学校が楽しい
90%

勉強がよくわかり楽しい
90%

挨拶や返事をしている
90%

きまりを守る友達を大切
90%

いじめは絶対許さない
100%

進んで運動している
95%

令和7年度 つつじが丘小学校経営方針

【教育理念】

地域に開かれた学校づくりを推進し、子どもの学びの環境を充実させるとともに、自ら学ぶ意欲を育て、基礎基本の確実な定着を図り、たくましさや豊かな人間性の育成を目指す学校教育を創造する。

【目指す学校像】

ゆとり・うるおい・ふれあいのある学校

- ◎ゆとり
 - ・学ぶ喜びを体験させ、学ぶ意欲を高める学校
 - ・教師が研修を通して実践的な力量の向上に努める学校
- ◎うるおい
 - ・明るく豊かな環境で一人一人の児童を大切にする学校
 - ・落ち着きとうるおいのある環境に満ち溢れた学校
- ◎ふれあい
 - ・児童理解と一人一人の児童の居場所を保障する学校
 - ・共通理解、説明責任に努め、地域の信頼に応える学校

【教育目標】

心豊かに 進んで学び 生きる力を身につける つつじが丘の子

- | | | |
|---------|--------------------|--------------------|
| ◎なかよい子 | (みんなへのおもいやり・・・こころ) | ・生命を大切にし、思いやるやさしい子 |
| ◎考える子 | (べんきょうのくふう・・・あたま) | ・礼儀正しく、きまりを守る子 |
| ◎たくましい子 | (いのちとけんこう・・・からだ) | ・自ら考え、判断し、解決する子 |
| | | ・自主的に活動し、表現できる子 |
| | | ・心身をきたえ、進んで運動する子 |
| | | ・安全を考え、健康な生活を送れる子 |

【つつじが丘小学校コミュニティ・スクール 二中エリアファミリー目指す子ども像】

地域とつながり 夢をもって学ぶ 笑顔と思いやりあふれる つつじの子

【今年度の教育の重点】

1 学校経営の基本的な考え

令和6年度の全国学力・学習状況調査の児童質問紙において、「自分にはよいところがある」という質問で当てはまること答えた児童は全国平均の半分で、当てはまらないと答えて児童は全国兵器人の2倍となった。つまり自己肯定感が高い児童は全国平均の半分で、低い児童は2倍いることになる。自己肯定感は勉強に対する意識や運動に対する意識と関係があり、挑戦心、達成感、規範意識とも関係が認められている。そこで、今年度の学校経営の重点を「自己肯定感を高める指導」に据え、多様な人々と関わることを通して、自分のよさに気付くとともに、子供一人一人の能力を発揮し、自己実現を図る。

目指す子供像

「すすんで自分のよさを発見し、自分をかけがえのない存在だと思い、自信をもって行動する子供」

- 自分のよさを発見するとともに、自分のよさを認める。

- 多様な人との関わりを通して、互いの存在の大切さに気付く。
- 今の自分を受け止め、自分の可能性について気付く。

2 本年度の重点目標

重点テーマ

何度もチャレンジ 「自分のよさ・仲間のよさに気づき、自信を深める」つつじっ子

自己肯定感が高い傾向にある子供は、進路の目標が明確で、友人関係も良好である一方で、学習への意欲や理解度が低い子供や、問題行動が見られる子供は、自己肯定感が低い傾向にある。子供を認める・励ます、子供一人一人のよさを生かし、子供自身が自分を価値ある存在として認められるような自己肯定感を高める指導の工夫が必要。その上で個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、自立した学習者の育成を目指す。

3 学校経営の基本方針

(1) 子供が楽しく登校し、子供を中心に据える学校

① 知(まなび)

- 「子供を主語」に据える学校教育を推進します。学ぶ側のである児童の視点に立ち、これまでの「教え込む教育(45分間の大半が教師の話である授業)」からの脱却を図り、児童の内にあるよさや可能性を「引き出す教育」、つまり児童自らの力やみんなと協力する力で「獲得する教育」へ転換します。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、自立した学習者の育成を目指します。
- 主体的・対話的で深い学びに向かうICTの効果的な活用を図ります。
- 学ぶための基礎・基本の力の育成と家庭学習の習慣化を図ります。
- 小学校段階は学び方を学ぶ段階と捉え「学びのやくそく」による学び方指導の徹底します。
- 「おび学」等を利用し、体験的な学びや本物と出会う学習機会の確保機会を確保し、児童の実感的な理解の促進を図ります。
- ST(推進教員)との協働による効果的な授業改善を図ります。(新しいかたちの学びの授業力

② 徳(こころ)

- 「元気な挨拶・返事と立腰」を意識した基本的生活習慣(ルールや時間を守る)の確立を促します。
- 全教科全領域における道德教育、特別活動を通して、自らの存在の大切さ(自己肯定感)を自覚させるとともに、他者との望ましい人間関係形成能力を育てます。
- 特別支援・インクルーシブ教育を中心とした学習環境づくりを行っていきます。(通級指導教室の開設)
- 児童の思いを生かした特別活動の充実を図ります。
- 心を豊かにする読書活動を推進します。
- 教職員が一体となった教育相談体制の充実を図り、スクールカウンセラーをはじめとする諸機関と連携し、児童の悩みを早期発見し、適切に解決します。いじめについては解消率100%を目指します。

③ 体(からだ)

- 体力向上のため、体育授業の見直しを図り、運動有能感を高める工夫と主体的な体力づくりを推進し、1校1実践への取り組みを継続して行います。
- 危険予知・回避能力を高める安全指導と環境整備を充実していきます。
- 命を大切に作る心と健康・安全を保つ保健学習を充実させます。
- 生涯にわたってスポーツに親しむ運動の習慣化を図ります。
- 整理整頓され、清潔で落ち着いた教室環境（学習環境）の整備に努めます。
- 体育専科教員との協働による運動有能感を高める授業づくりの充実を図ります。

(2) 保護者から信頼され、安心して子供を預けられる学校

- 授業参観、懇談会、面談等の対面での話し合いを重視します。
- chromebook を活用した作品展等や安心メールの積極活用により、ICTを活用した情報発信を工夫します。
- 家読(うちどく)、読書活動の習慣化を促します。
- 年2回の学校評価アンケートの実施と検証を行い、改善に努めます。
- 保護者が学校の教育活動に触れる機会を工夫し、学校教育に対する保護者の理解に努めます。
- 日々の安全点検や安全指導を充実させ、事故の予防を徹底するとともに、万が一の事故・災害の発生時には、児童の身体・生命の安全を第一に、迅速かつ適切な対応に努めます。

(3) 地域に愛され、ともに子供たちを育む学校

- 学校の情報発信等を工夫し、学校教育への地域の理解を深め、地域一体となって子供を育てます。
- 帯広第二中学校エリアファミリーによる幼保小中の連携強化を図ります。
(学習プラン 生活プラン 体力プランの活用)
- コミュニティ・スクールの積極活用による諸団体との連携を図ります。
- セーフティネットつつじ・つつじの会を接点とした児童の見守り活動や居場所づくりを推進していきます。

(4) 教員が自らの職責を誇りに思う学校

- すべての教職員が、職務の崇高な使命を自覚し、子供に対する愛情を基調とした質の高い教育活動を目指す学校組織を作ります。(児童理解)
- 人材育成等のための校内研修を一層充実し、教職員に学力向上をはじめとする多様な教育課題に適切に対応できる力を向上させます。(授業力向上)
- 教職員が個性や能力、経験等を最大限活用するとともに引き続き「オープンシェア」の意識のもと、互いに高め合い、支え合うことで、チームとしての総合力を高めます。(よりよい組織の構築)
- 管理職は、教職員の悩みや苦労を共有し、必要とされる適切な指導・支援を行うことで、安心して働けるウェルビーイングな学校風土を醸成します。

4 重点を具現化する取組を支える学校の姿

(1) 学校マネジメント

コンプライアンスの確立・教育公務員としての自覚・「報告・連絡・相談・確認」を基盤に組織

的にチームとして動く学校

(2) 落ち着いた学習環境

挨拶・返事・立腰の徹底（学びの約束 6 か条）

指導を「そろえる」実践の継続（国語テスト・漢字スキルの共通化 学びの約束 6 か条の徹底）

（学級担任 1 年制により、担任が変わっても安心して学べる環境づくり）

(3) 教育課程・指導方法

社会に開かれた教育課程をもとに子どもの成長とともに日々の実践を着実に積み重ねる学校

(4) 人材育成

学校評価や校内 OJT を踏まえて、常に実践を省みて学校改善に生かす学校

「オープンシェア」の意識のもと、自身の能力を校内で共有することにより、チームとしての向上を常に目指す学校

(5) 働き方改革・危機管理

ICT の活用、チームとして一人一人が隙間を埋める業務の平準化

超過勤務縮減のため、あらゆる危機を想定しての日常点検、早期発見・解決、未然防止に努める学校

(6) 家庭や地域との連携

家庭や地域、エリア内の幼稚園・保育所・中学校と強くつながる学校

5 目指す子供の姿(継続)

ステージ	前 期	期	後 期	期
	第Ⅰステージ 4月～6月	第Ⅱステージ 7月～9月	第Ⅲステージ 10月～12月	第Ⅳステージ 1月～3月
	 挑 戦	 高 め る	 磨 く	 成長・感謝
めざす 子供の姿	○自分を知り、なりたい自分の目標をもつ。 ○目標に向かって挑戦する姿 ○自分で頑張る姿 ○みんなで頑張る姿	○目標に向かって取り組む姿 ○自分から頑張る姿 ○自分の思いや考えを積極的に表現する姿	○自他のよさを認め合い、さらに磨こう、磨き合おうとする姿	○自分の成長や友達の成長を振り返る姿 ○自分を支えてくれた周りに感謝の気持ちをもつ姿

※令和 7 年度の重点チェックポイント～評価ごとに検証～

- | | |
|------------------------|------------------------|
| ① 「自分にはよいところがある」 8 5 % | ② 「学校が楽しい」 9 0 % |
| ② 「勉強がよくわかり楽しい」 9 0 % | ④ 「挨拶や返事をしている」 9 0 % |
| ⑤ 「きまりを守る・友達を大切」 9 0 % | ⑥ 「いじめは絶対許さない」 1 0 0 % |
| ⑦ 「進んで運動している」 9 5 % | |

6 教育活動推進の重点

(1) 魅力ある学校づくり

□「子供を主語に」据え、児童・保護者・地域にとって安心感・信頼感のある学校づくりに努める。

- ① 指導者の視点で考えていた学校教育を学習者の視点で考えていく
- ② 幼保小中連携（二中エリアファミリー）や地域連携の実践と改善・協議

- ③ 学びを学校の中だけとせず、地域社会の教育活動参画により児童が探求的に学び、ふるさと帯広への誇りと愛着を育む(おびひろ市民学の活用)
- ④ P D C A サイクルに基づいた見える学校経営

(2) 教育課程

□「生きる力」を身に付けさせる教育課程の編成と実証的検証。

- ① 「社会に開かれた教育課程」の実現
- ② 教科横断的な視点に立ったカリキュラム・マネジメント
- ③ 「個別最適な学びと協働的な学び」、「主体的・対話的で深い学び」を充実させる GIGA スクール構想の推進
- ④ 身に付けたい資質・能力に応じた課題設定とふり返りを意識した「総合的な学習の時間」の実践
- ⑤ 言語活動の充実（特に「論理的説明力」→「書いて説明する」活動）
- ⑥ 9年間を見通したおびひろ市民学の推進
- ⑦ 外国語学習の実践（A L T との連携等）

(3) 学習指導

□学習のねらい、身につけさせたい力を明確にした指導の充実を図る。

- ① 学ぶ姿勢を確立する「学びのやくそく6カ条」の徹底（年度初めに再確認・定期的な検証）
- ② 主体的・対話的で深い学びを求め、見方・考え方を広げ、自立した学習者の育成を目指した授業の推進
（1人1台端末やその他 I C T の効果的な活用・ミライシードの活用）
- ③ 授業→家庭学習→朝学習の効率的な連動、各種テストの事前事後指導による学習の確実な定着（デジタルドリルの活用と家庭学習の質的向上）

(4) 道徳教育

□道徳的価値に裏打ちされた人間としての生き方についての自覚を深め、よりよく生きるための道徳性を育てる。

- ① 児童が考え、議論し、道徳的価値について多面的・多角的にとらえられる道徳授業の質的改善に努める
- ② 道徳性に係る成長の様子を見取り、一人一人の成長を促すよう努める
- ③ 別業に基づく道徳との関連を図った教育活動の充実

(5) 特別活動

□集団活動を通して、個性を伸ばし、自主的・実践的な態度を育てる。

- ① 学級活動の工夫と望ましい人間関係の醸成
- ② 児童の思いを生かした児童会活動の充実と自主的・主体的な態度の育成
- ③ 豊かな体験活動を取り入れた学校行事の充実
- ④ 小中連携・エリアによる児童・生徒の交流授業の推進

(6) 生徒指導

□一人一人の個性の発見とよさや可能性を伸ばし、社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己実現を支える。

- ① カウンセリングマインドに基づき規範意識の向上とその内面化を図る指導の工夫
- ② いじめを正確に認知し、「いじめを見逃さない」という姿勢で共有する。
- ③ 児童一人一人に「いじめは人間として絶対許されない行為である」ことを教育活動全体を通じて指導する。
- ④ 不登校の背景を適切にアセスメントし、本人及び家庭・保護者を支える視点を大切に、心の

居場所としての魅力ある学校づくりに努める。

- ⑤ 不登校への継続した家庭とのつながりや、別教室棟からのオンライン「ひろびろ」を含む関係機関との連携により、学習機会の確保について推進する。(ひろびろチョイス)
- ⑥ 家庭・地域との連携した指導の工夫
「あいさつ」「早寝・早起き・朝ごはん」「家庭学習の時間確保」
「タブレット・スマホ・ゲーム機の使用ルール」「読書の推進」

(7) 学校安全

□自ら安全に行動し他の人や社会の安全に貢献できる資質・能力を育成することで、積極的に安心・安全な学校環境の基盤づくりに努める。

- ① 自ら命を守り抜くために主体的に行動する態度を育成する。
- ② 交通安全指導、通学路安全確保の徹底
- ③ 火災や地震等の自然災害に備える資質を養い、安全に関する指導の充実を図る。
- ④ 児童の健康状態やアレルギーの有無等の把握に努め、校内での情報共有及び関係機関との連携を適切に行う
- ⑤ 健康な体づくりや感染予防等に関する指導の推進

(8) 学年・学級経営

□支持的風土を醸成し、個々の自己有用感を育む経営の充実に努める。

- ① 自己肯定感をもち、自他を尊重し合える学級集団作りの工夫（褒めるから認める指導へ）
- ② 一人一人が認められ、みんなが明るく、学び合い、充実感・達成感を味わえる学級集団づくりの工夫

(9) 校内研修

□指導力の向上を目指し、組織的・計画的な研修を推進する。

- ① 本校児童の学力の分析・共有を行い、課題点に即応した柔軟な校内研修の推進
- ② 小中連携・地域連携による授業交流・公開（教育実践発表会の開催）
- ③ 日常の実践に結びつく共同研究の推進
- ④ 学校指導訪問等による開かれた研修
- ⑤ 各種研修会等への計画的・積極的な参加と還流（遠方オンライン研修も積極利用）

(10) 学校評価

□自己評価と連動した外部評価を実施し、学校改善に努める。

- ① 評価委員会を中心とした学校評価の実施と改善
- ② 評価委員会を中心とした評価結果の積極的な公開
- ③ CS協議会と連携した課題の共有と改善

(11) 特別支援教育

□一人一人の教育的ニーズを的確に把握し、そのもてる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するために、切れ目のない一貫した適切な指導及び必要な支援を行う。

- ① 一人一人の障がいの状況に応じた合理的配慮を提供するとともに、効果的・効率的な教育支援を実施
- ② 特別支援教育コーディネーターが中心となり、関係機関との連絡調整役として、また保護者に対する学校の窓口として、連携協力の強化を図る。
- ③ 通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童の自立や社会参加に向け、適切な指導および必要な支援を行う。（通級指導教室の開設）
- ④ 共に生きていく社会の実現に向けた共生の心の育成

(12) その他の教育活動

□外部人材の適宜活用や「おびひろ市民学」を活用し、日常的な取組の継続と充実に努める。

- ① 朝読書・朝学習、体力づくり、ボランティア等の推進
- ② 各領域等との関連を図った、環境教育、福祉教育、情報教育、N I E、国際理解教育、図書館教育、キャリア教育、性教育、保健教育、人権教育等の推進
- ③ スクールコラボ等の制度の積極的な活用

(13) 教職員の服務規律保持と健康管理

□健康管理に積極的に努め、教育公務員としての自覚を持った行動に努める。

- ④ 自らの体調管理と早めの対処、ストレス解消に心がける。
- ① 交通事故・違反の防止、体罰暴言防止、情報安全等、服務規律保持等に心がける。
- ② 働き方改革に向けた勤務の効率化と平準化とワークシェア(一部教科担任制の導入)